

ニュースメディアの信頼向上の取り組み

—欧州における AFP と yle を事例に—

○藤代裕之 (Hiroyuki Fujishiro)、井上直樹 (Naoki Inoue)

Keywords : ニューストラスト、偽・誤情報対策、フェイクニュース、ニュースメディア、ジャーナリズム

1 目的

本研究の目的は、ニュースメディアの信頼を高めるために、どのような取り組みを行う必要があるのかを明らかにすることである。インターネットが拡大し、人々はポータルサイトやソーシャルメディアからニュースに触れるようになった。伝統的なニュースメディアである紙媒体の影響力は大きく低下し、インターネットではフェイクニュースや偽・誤情報が拡散するニュース生態系に組み込まれている (藤代 2021)。ロイタージャーナリズム研究所のレポート (2024) は、ジャーナリズムの重要性は高まっているものの、ニュースメディアは偽・誤情報の増加や信頼性の低下などに悩まされていると指摘している。

2 方法

ロシアからの偽情報に直面する欧州のニュースメディアにヒアリング調査を行う。対象は、フランスの通信社である AFP、フィンランドの公共放送 yle である。両社ともに新たなインターネットサービスなどを開発する「ラボ」を有しており、AFP では偽・誤情報対策のツール「InVid/Weverify」を開発、yle は分断を煽ることで偽情報が拡散する構造を理解するゲーム「Troll Factor」を提供している。前掲のレポートによると、フランスでは 31%、フィンランドでは 69%がニュースを信頼すると回答している。

3 結果

AFP は世界各地でファクトチェック活動に取り組んでいる。通信社は記事をメディアに提供する BtoB 事業だが、ファクトチェック記事は直接読者に届ける BtoC 事業であり、読者から「姿が見える」ようになった。「InVid/Weverify」は EU の支援を継続的に受けて大学や IT 企業と連携して開発しており、184 カ国でジャーナリスト、ファクトチェッカー、研究者らが使用するという新たなつながりを生んでいる。yle の「Troll Factor」は 30 万の利用者があった。yle では社会から阻害されていると感じている人の話を聞く活動も行っている。その理由を担当者は「社会を信じていないとニュースを信じないからだ」と述べていた。

4 結論

ファクトチェック活動やジャーナリズムのデジタル化は大切であるが、読者をつながる、社会と向き合うことが、ニュースメディアの信頼を高めることにつながると考えていることが分かった。

【主要参考文献】

藤代裕之編 (2021) 『フェイクニュースの生態系』 青弓社

藤代裕之 (2024) 「フェイクニュース対策における「ニューストラスト」の重要性」『情報通信学会誌』

Reuters Institute (2024) 「Digital News Report」